

4月21日患者支援センターがオープンしました

エントランスホール左側にあります



患者支援センターとは？

- ◆ 現在は、患者さんやご家族の方へ『落ち着いた環境でわかりやすく』をモットーに、入院のご案内、高額療養費のご説明、看護師による入院や検査のご説明を行っております。
また、受診相談も行っております。
- ◆ 各種相談の窓口となり、相談内容に合わせ各部門への連絡をとっております。
そして、各部門が患者支援センターにて患者さんやご家族の相談に対応しております。
- ◆ 準個室も完備しており、プライバシーに配慮しております。
どうぞお気軽にご利用ください。
今後も、患者支援センターの内容充実を順次考えてまいります。

今月の医療

～最先端の胃がんの内視鏡治療と腹腔鏡下手術～

胃がんの治療は、多くの場合、**内視鏡治療**、**手術治療**、**薬物療法**(抗がん剤治療)、**放射線治療**などの治療を単独、あるいは組み合わせて行います。

診断には胃カメラ(組織検査)、胃 X 線検査(バリウム検査)、腹部超音波検査、CT 検査などを行い、病期(進行度)を判断し、病期に応じた治療を選択しています。

【胃がんの内視鏡】

太さ約 10 mmの内視鏡を飲み込み、胃の内部を直接観察し、がんの有無や広がりを見る検査です。当院では**最新の拡大内視鏡**を導入し、病変を拡大観察することでがんの広がりや深さをより詳細に診断しております。

【内視鏡治療】

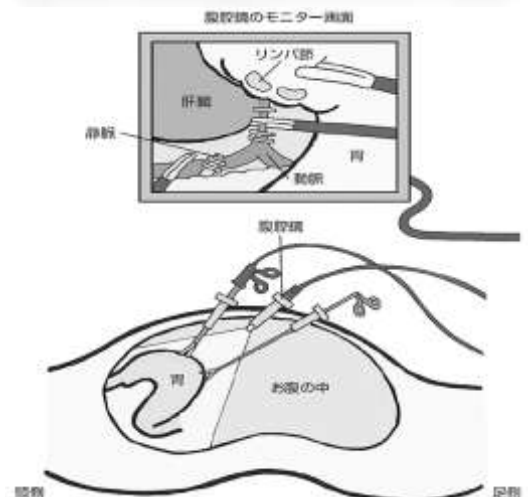
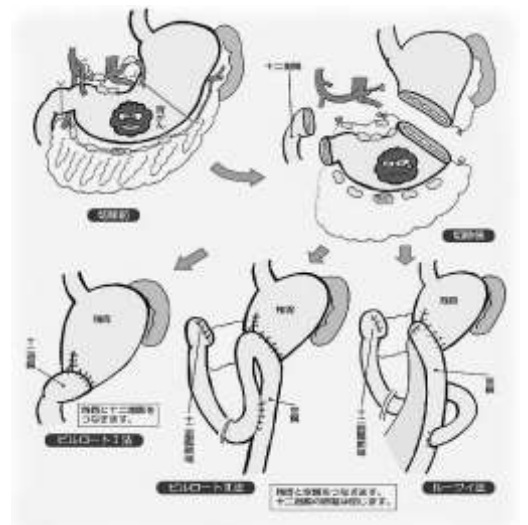
病変の大きさが 2 cm以下、深さの浅い病変でリンパ節に転移がない場合、身体に負担が大きい手術は行わず、内視鏡治療を行っています。治療の際には**静脈麻酔薬**を使用し、苦痛のない状態で治療を行います。内視鏡を通した小さな電気メスで粘膜下層をはがし、腫瘍を切除する手術です。開腹手術と比較して、術後の生活に影響が少ないのが特徴です。

【腹腔鏡下胃切除術】

当院では平成 26 年 4 月より、内視鏡治療の適応がなく、**リンパ節転移がない早期胃がん**に対して腹腔鏡下胃切除術を導入いたしました。従来の手術では、おなかの真ん中に 25 cmほどの大きな傷が残りましたが、腹腔鏡下手術では 1 cm程の傷が 4 か所とお臍に 4 cm程の傷が 1 か所、合計 5 か所の小さな傷で手術が可能となりました。さらに腹腔鏡の利点は、切るところを拡大して見ながら、より細かい作業が可能となることで丁寧な手術を行うことが出来ます。開腹手術よりやや時間がかかることが欠点ではありますが、出血量は少なく、術後の回復、社会復帰が早いところが特徴です。通常手術後、翌日より水分摂取を開始し 7～10 日で退院となります。

手術は高度な技術が必要とされ、当科では、**内視鏡外科学会認定指導医**と共に**内視鏡外科チーム**で、安心、安全な患者様にやさしい治療に取り組んでおります。

ご不明な点がございましたら**外科医長 畑地 健一郎**までご相談ください。



外科医長 畑地 健一郎

☆当院は紹介制の医療機関のため、まずかかりつけ医にご相談いただくようお願いいたします。